

外為マンズレビューⅢ 南半球編

先月までの為替相場のレビューと、今後の注目の経済指標やイベントを元に、為替相場の展望をお届けします。

2013/04/01

日銀緩和強化期待と米景気回復期待が支える相場

| 通貨ペア | 基調 | | ページ数 |
|---------------|----|-------------------------|------|
| <u>豪ドル/円</u> | ➡ | RBAの金融スタンスに注目 | 2-3 |
| | | 予想レンジ: 94.40 ~ 100.50 円 | |
| <u>NZドル/円</u> | ➡ | RBNZ声明はタカ派?ハト派? | 4-5 |
| | | 予想レンジ: 75.00 ~ 81.60 円 | |
| <u>ランド/円</u> | ↘ | 買い材料は少ない | 6-7 |
| | | 予想レンジ: 9.60 ~ 10.60 円 | |

※通貨ペアをクリックすると、そのページにジャンプします



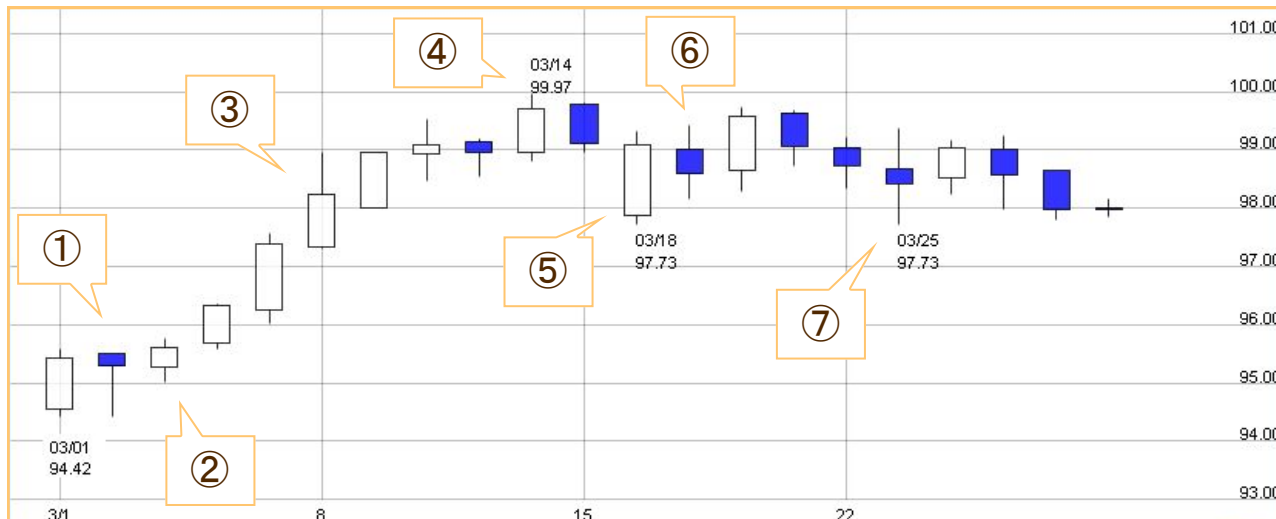
本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2013 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

AUD / JPY

豪ドル/円 3月の推移

| | 始値 | 高値 | 安値 | 終値 |
|-----|--------|--------|--------|--------|
| 四本値 | 94.55円 | 99.97円 | 94.42円 | 97.98円 |



- ① 4日、日銀総裁候補の黒田氏が所信聴取で「デフレ脱却に向けてやれることは何でもやる姿勢を明確にする」などと発言するも、全般的に無難な発言内容が伝わると円買い戻しが強まり、豪ドル/円は下落。前週末に発表された中国の不動産価格抑制策を嫌気して上海数が大幅安となったことも重石となった。しかし、安く始まったNYダウ平均株価がプラス圏に上昇すると、下げ幅を縮小した。
- ② 5日、豪準備銀行(RBA)は市場の大方の予想通り、政策金利の3.00%据え置きを発表。声明文にて緩和的な政策を維持する文言が残されたことを受け、豪ドル/円は95.01円まで下落するも一時的。その後中国の温家宝首相が「GDP前年比+7.5%を達成するために財政を拡大する」との方針を示した事を手掛かりに、NYダウ平均株価が史上最高値を更新すると、95.77円まで上昇した。
- ③ 8日、米2月失業率が7.7%、非農業部門雇用者数が前月比23.6万人増と予想(7.9%、16.5万人増)より大幅に強い結果となり、ドル買いが優勢となると、ドル/円上昇の影響を受けて豪ドル/円は98.95円まで連れて上昇。ただその後は豪ドル/米ドル下落の影響を受けて上げ幅を縮小した。
- ④ 14日、豪2月失業率が5.4%、雇用者数変化は7.15万人増、労働参加率は65.3%と予想(5.5%、1.00万人増、65.0%)より大幅に強い結果となった。これを受けて豪ドル買いが強まった。これが欧州市場に入って蒸し返されると、豪ドル/円は2008年8月以来となる99.97円まで続伸。ただケントRBA総裁補の「(この日発表された豪2月雇用統計の)伸びの一部は統計方法に関連した影響が出ている可能性がある」との発言が伝わると、上げ幅を縮小した。
- ⑤ 18日、前週16日に決定されたキプロス支援策について、預金課税という異例の措置が取られた事を嫌気してリスク回避の動きが強まると、豪ドル/円は早朝のオセアニア市場にて97.06円まで急落。ただその後「キプロスは金融支援を巡って新しい預金課税の提案を準備している」との一部報道を受け、ユーロ圏財務相会合で合意した条件が変更されるとの期待を背景にユーロ/円が反発。豪ドル/円も連れ高となった。
- ⑥ 19日、公表されたRBA議事録は5日の声明文とほぼ同じ内容であったため、豪ドル/円相場の反応は限定的であった。
- ⑦ 25日、ダイセルブルーム・ユーログループ議長が「キプロスの銀行リストラ計画は、ユーロ圏銀行危機の解決のモデルになる」などと発言。他のユーロ圏の問題国が救済される時にも民間投資家が負担を強いられるのではとの懸念が強まって欧米株が下落すると、豪ドル/円は97.73円まで急落した。

巻頭の特記事項を必ずお読みください。

AUD / JPY

今月のポイント

3月の豪ドル/円相場は94.42円～99.97円のレンジで推移し、月間の終値ベースでは約3.5%の上昇(豪ドル高・円安)となった。前半は日銀による緩和強化期待からくる円売りや、予想より強い米経済指標が相次いだことによるリスク・オンの流れ、豪2月雇用統計を好感した豪ドル高を受けて100円の台目前まで上昇。その後も97～99円台で高止まりする展開となった。

4月は、本邦の緩和強化と米国の景気回復という、2つの期待が軸となりそうだ。4日の日銀金融政策発表では、国債買入れ年限の長期化などはほぼ織り込み済みとなっている。市場の期待以上の緩和策を打ち出せるか、あるいは黒田総裁が次の緩和策への期待感を上手くコントロールできるか否かが、円売り基調が続くかを見極める上で重要視されよう。また、先月は米景気回復期待を背景にNYダウ平均株価が史上最高値を更新した事も、豪ドル/円の上昇を支えた。この流れが続くか、5日の米3月雇用統計を始め米経済指標に注目したい。

先月後半から浮上したキプロス・イタリア情勢について、現時点ではギリシャショックのような危機につながるの見方は少ない。とはいえ、リスク回避ムードが強まる場面では豪ドル/円相場に下押し圧力が掛かる可能性が高い。

豪州では4日に金融政策発表が予定されている。事前予想では金利据え置きがコンセンサスであり、市場の関心はそれ以上に声明文に集まっている。足下の米中の景気回復や予想より大幅に強い内容となった豪2月雇用統計を背景に「必要なら政策緩和の余地を与えている」の一文が削除されるようならば、RBAの金融政策が緩和から中立へと変化した事が好感されて豪ドルが買われる展開が予想される。豪州の金融スタンスを読み解く上で、豪州や中国の経済指標にも注目したい。(川畑)

(予想レンジ:94.40～100.50円)

今月の注目材料

※発表日時は予告なく変更される場合があります。※予定一覧は信頼性の高いと思われる情報を元にまとめておりますが、内容の正確性を保証するものではありませんので事前にご留意くださいますようお願いいたします。

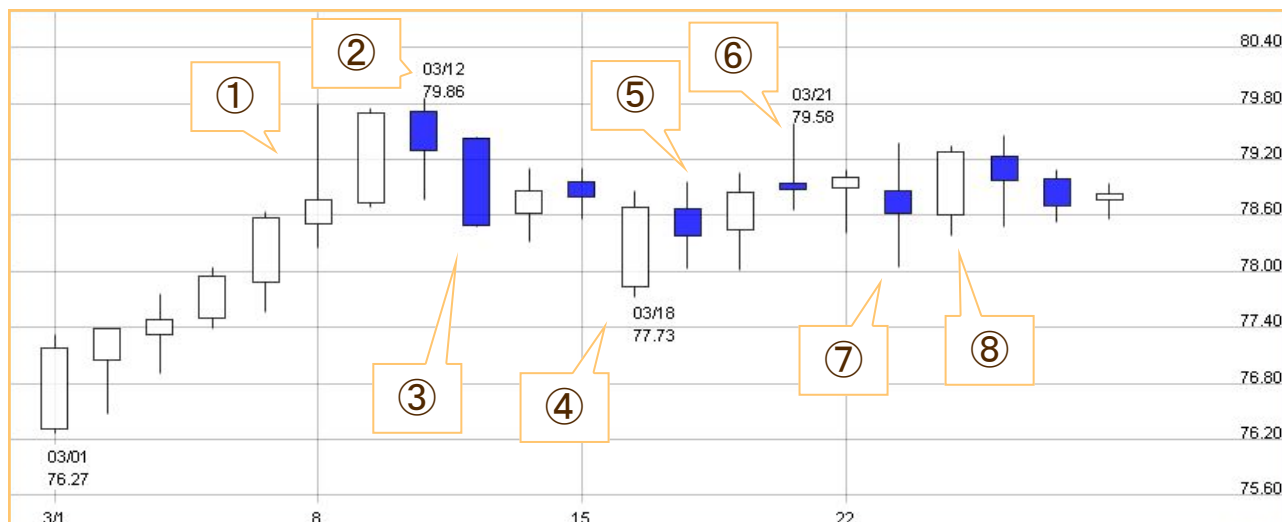
| 日付 | 経済指標、イベント等 | 日付 | 経済指標、イベント等 |
|--------|-------------------|---------|---------------------|
| 4/1(月) | 日銀短観 | 4/10(水) | 3月中国貿易収支 |
| | 3月中国製造業PMI | 4/11(木) | 3月豪雇用統計 |
| | 3月米ISM製造業景況指数 | 4/12(金) | 3月米小売売上高 |
| 4/2(火) | RBAキャッシュターゲット | | 4月ミシガン大消費者信頼感指数・速報値 |
| 4/3(水) | 2月豪貿易収支 | | ユーロ圏財務相会合(～13日) |
| | 3月米ADP全国雇用者数 | 4/15(月) | 3月中国小売売上高 |
| | 3月米ISM非製造業景況指数 | | 第1四半期中国GDP・速報値 |
| 4/4(木) | 2月豪小売売上高 | 4/16(火) | RBA議事録 |
| | 日銀金融政策決定会合(3日～発表) | 4/18(木) | 3月日通関ベース貿易収支 |
| | 欧州中銀金融政策発表 | 4/23(火) | 4月中国HSBCフラッシュ製造業PMI |
| 4/5(金) | 3月米雇用統計 | 4/24(水) | 第1四半期豪消費者物価指数 |
| 4/8(月) | 2月日貿易収支 | 4/26(金) | 日銀金融政策決定会合 |
| 4/9(火) | 3月中国消費者物価指数 | | 第1四半期米GDP・速報値 |

巻頭の特記事項を必ずお読みください。

NZD/JPY

NZドル/円 3月の推移

| | 始値 | 高値 | 安値 | 終値 |
|-----|--------|--------|--------|--------|
| 四本値 | 76.31円 | 79.86円 | 76.27円 | 78.83円 |



- ① 8日、米2月失業率が7.7%、非農業部門雇用者数が前月比23.6万人増と予想(7.9%、16.5万人増)より大幅に強い結果となり、ドル買いが優勢となると、ドル/円上昇の影響を受けてNZドル/円も79.80円まで連れて上昇。ただその後はNZドル/米ドルでの下げに連れて上げ幅を縮小した。
- ② 12日、日本経済新聞の「黒田氏が日銀総裁に就任した場合、早期に追加緩和に踏み切るとの考えを強調した」との報道を手掛かりに円売りが優勢となると、NZドル/円は2008年7月以来となる79.86円を記録。ただその後は本邦や中国株の軟調推移を背景に反落した。
- ③ 13日、取引終盤にNZ準備銀行(RBNZ)は市場の大方の予想通り、政策金利の2.50%据え置きを発表。ただ、声明にて年内は金利を据え置く方針を示し、(NZドル高を背景に)状況によっては利下げの可能性もあるとした事が伝わると、NZドル円は発表前の水準から1円弱急落した。
- ④ 18日、前週16日に決定されたキプロス支援策について、預金課税という異例の措置が取られた事を嫌気してリスク回避の動きが強まると、NZドル/円は早朝のオセアニア市場にて77.02円まで急落。ただその後「キプロスは金融支援を巡って新しい預金課税の提案を準備している」との一部報道を受け、ユーロ圏財務相会合で合意した条件が変更されるとの期待を背景にユーロ/円が反発。NZドル/円も連れ高となった。
- ⑤ 19日、国際通貨基金(IMF)が「NZドルが過大に評価され、輸入を圧迫しているものの、NZドル高に向けた介入の必要はない」との見解を示し、イングリッシュNZ財務相が「米景気が活気付けば、NZドルにも調整が見られるだろう」「政策金利はより長期に渡って低い水準で維持される可能性がある」などと発言。これを受けてNZドル/円は弱含みで推移した。
- ⑥ 21日、NZ第4四半期国内総生産(GDP)は前期比+1.5%、前年比+3.0%と予想(+0.9%、+2.3%)を大きく上回った。これを好感してNZドル買いが優勢となった。その後イングリッシュ財務相が「RBNZによれば、NZドルは約15%過大評価されている」等と発言したが、市場の反応は薄かった。
- ⑦ 25日、ダイセルブルーーム・ユーログループ議長が「キプロスの銀行リストラ計画は、ユーロ圏銀行危機の解決のモデルになる」と発言。他のユーロ圏の問題国が救済される時にも民間投資家が負担を強いられるのではとの懸念が強まって欧米株が下落すると、NZドル/円は78.04円まで急落した。
- ⑧ 26日、NZ2月貿易収支が4.14億NZドルの黒字と予想(0.12億NZドルの赤字)より強い内容となった。これを受けて直後のNZドル/円相場は20銭ほど上昇した。

巻頭の特記事項を必ずお読みください。

NZD / JPY

今月のポイント

3月のNZドル/円相場は76.27円～79.86円のレンジで推移し、月間の終値ベースでは約2.9%の上昇(NZドル高・円安)となった。前半は日銀による緩和強化期待からくる円売りや、予想より強い米経済指標が相次いだことによるリスク・オンの流れを背景に80円の台目前まで上昇するも、相次ぐNZドル高けん制発言によって伸び悩んだ。

4月は、本邦の緩和強化と米国の景気回復という、2つの期待が軸となりそうだ。4日の日銀金融政策発表では、国債買入れ年限の長期化などはほぼ織り込み済みとなっている。市場の期待以上の緩和策を打ち出せるか、あるいは黒田総裁が次の緩和策への期待感を上手くコントロールできるか否かが、円売り基調が続くかを見極める上で重要視されよう。また、先月は米景気回復期待を背景にNYダウ平均株価が史上最高値を更新した事も、NZドル/円の上昇を支えた。この流れが続くか、5日の米3月雇用統計を始め米経済指標に注目したい。

先月後半から浮上したキプロス・イタリア情勢について、現時点ではギリシャショックのような危機につながるの見方は少ない。とはいえ、リスク回避ムードが強まる場面ではNZドル/円相場に下押し圧力が掛かる可能性が高い。

NZ国内では、24日の金融政策発表が注目されよう。前回、RBNZが声明にてNZ国内の干ばつへの影響や、利下げの可能性について言及したことで、NZドル/円が下落。今回も前回と同様の内容となるようだと、直後のNZドル相場に下落圧力がかかるだろう。ただし、1月の声明では過熱する国内住宅市場に懸念を示したことで、NZドルが上昇したのは記憶に新しい。RBNZの声明がどちらに軸足を置いた内容となるか注目である。(川畑)

(予想レンジ: 75.00～81.60円)

今月の注目材料

※発表日時は予告なく変更される場合があります。※予定一覧は信頼性の高いと思われる情報を元にまとめておりますが、内容の正確性を保証するものではありませんので事前にご留意くださいますようお願いいたします。

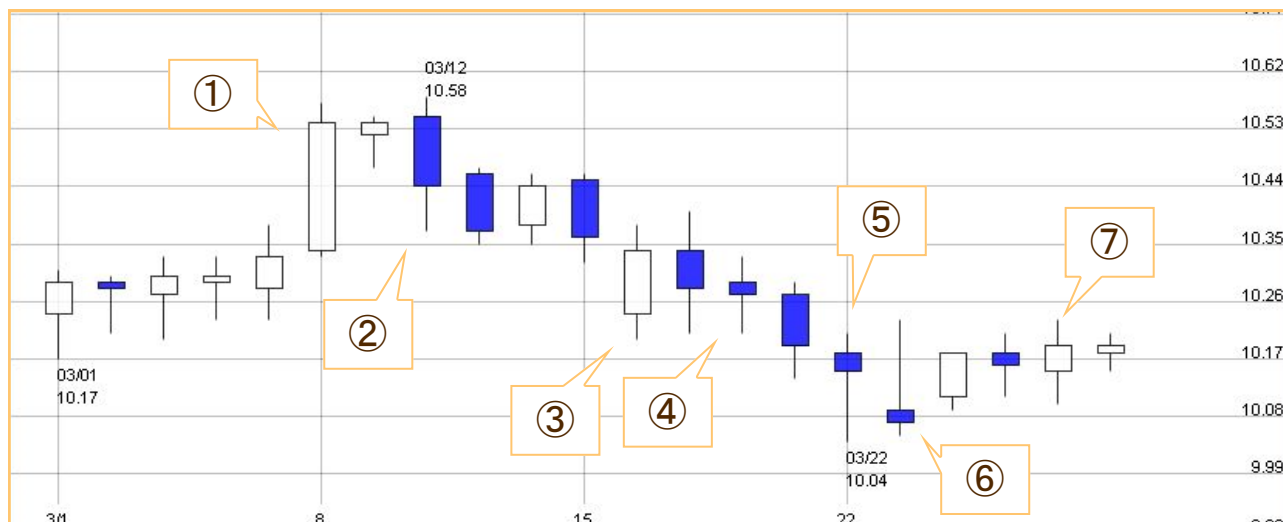
| 日付 | 経済指標、イベント等 | 日付 | 経済指標、イベント等 |
|---------|-------------------|---------|----------------------|
| 4/1(月) | 日銀短観 | 4/12(金) | 3月米小売売上高 |
| | 3月中国製造業PMI | | 4月ミシガン大消費者信頼感指数・速報値 |
| | 3月米ISM製造業景況指数 | | ユーロ圏財務相会合(～13日) |
| 4/3(水) | 3月米ADP全国雇用者数 | 4/17(水) | 第1四半期NZ消費者物価 |
| | 3月米ISM非製造業景況指数 | 4/18(木) | 3月日通関ベース貿易収支 |
| 4/4(木) | 日銀金融政策決定会合(3日～発表) | 4/23(火) | 4月中国HSBCフラッシュ製造業PMI |
| | 欧州中銀金融政策発表 | 4/24(水) | RBNZオフィシャル・キャッシュレートの |
| 4/5(金) | 3月米雇用統計 | 4/26(金) | 2月NZ貿易収支 |
| 4/8(月) | 2日日貿易収支 | | 日銀金融政策決定会合 |
| 4/9(火) | 3月中国消費者物価指数 | | 第1四半期米GDP・速報値 |
| 4/10(水) | 3月中国貿易収支 | 4/30(月) | 3月NZ住宅建設許可 |

巻頭の特記事項を必ずお読みください。

ZAR/JPY

ランド/円 3月の推移

| | 始値 | 高値 | 安値 | 終値 |
|-----|--------|--------|--------|--------|
| 四本値 | 10.24円 | 10.58円 | 10.04円 | 10.19円 |



- ① 8日、マーカス南ア準備銀行(SARB)総裁が「現在の対ドルでの9.0～9.2ランドは過度なランド安水準」と発言した事を受け、ランド/円はじり高で推移。米2月失業率が7.7%、非農業部門雇用者数は前月比23.6万人増と予想(7.9%、16.5万人増)より大幅に強い結果となり、ドル買いが優勢となると、ドル/円上昇に連れて10.57円まで一段高となった。その後は米ドル/ランドの上昇(＝ランド安)を受けて値を下げるも、NYダウ平均株価の史上最高値更新を背景に反発した。
- ② 12日、日本経済新聞の「黒田氏が日銀総裁に就任した場合、早期に追加緩和に踏み切るとの考えを強調した」との報道を手掛かりに円売りが優勢となると、ランド/円は一時10.58円まで上昇。しかし南ア第4四半期経常収支が2126億ランドの赤字と市場予想(2031億ランドの赤字)以上の赤字額だったことを受け、ランド売りが強まった上、「民主党は黒田・中曽正副総裁案に賛成するが、岩田副総裁案には反対」との一部報道を受けて円買い戻しが強まると、10.37円まで反落した。
- ③ 18日、前週16日に決定されたキプロス支援策について、預金課税という異例の措置が取られた事を嫌気してリスク回避の動きが強まると、ランド/円は早朝のオセアニア市場にて10.19円まで急落。ただその後「キプロスは金融支援を巡って新しい預金課税の提案を準備している」との一部報道を受け、ユーロ圏財務相会合で合意した条件が変更されるとの期待を背景にユーロ/円が反発。ランド/円も連れ高となった。
- ④ 20日、南ア準備銀行(SARB)は市場の予想通り、政策金利の5.00%据え置きを決定。声明文では「利上げについて議論しなかった」「SARBはランドの目標水準を有していない」等が伝えられるも、ランド/円相場の反応は限定的であった。
- ⑤ 22日、まとまった規模のドル売り・円買いが入った事を受けたドル/円の下げ事や、独3月IFO景況指数が予想を下回った事を受けたユーロ/円の下げが重なり、ランド/円は10.04円の安値を付けた。
- ⑥ 25日、ダイセルブルーム・ユーログループ議長が「キプロスの銀行リストラ計画は、ユーロ圏銀行危機の解決のモデルになる」などと発言。他のユーロ圏の問題国が救済される時にも民間投資家が負担を強いられるのではとの懸念が強まって欧米株が下落すると、ランド/円は10.05円まで急落した。
- ⑦ 28日、南ア2月貿易収支が95億ランドの赤字と予想(125億ランドの赤字)よりも赤字幅が縮小した。これを受けてランド/円は小幅に値を上げた。

ZAR/JPY

今月のポイント

3月のランド/円相場は10.04円～10.58円のレンジで推移し、月間の終値ベースでは約0.7%の下落(ランド安・円高)となった。前半は日銀による緩和強化期待からくる円売りや、米2月雇用統計の上ぶれからくるリスクオンムードを背景を値を上げるも一時的。その後はキプロス情勢不安の影響からリスク回避の動きが強まって下落した。18日に南ア電力会社のエスコムが「電力供給とピーク時の需要ギャップがわずかしない」との見方を示した事で、同国の電力不安が台頭した事も重石となった。

4月は、南ア国内の社会不安(スト)に加え、南ア半球が冬場に向かうにあたり電力不足の懸念が浮上した事を背景に、上値の重い展開が予想される。貿易収支の赤字傾向が続いている事も、引き続き重石となろう。現状ではランド買いの材料が少なく、キプロス・イタリア情勢不安などリスク回避局面では売られやすいと見る。仮に主要国での株高を理由に「リスク・オン」の流れとなったとしても、ランド/円の上昇の勢いは他の資源国通貨よりも劣る事が予想される。(川畑)

(予想レンジ:9.60～10.60円)

今月の注目材料

※発表日時は予告なく変更される場合があります。※予定一覧は信頼性の高いと思われる情報を元にまとめておりますが、内容の正確性を保証するものではありませんので事前にご留意くださいますようお願いいたします。

| 日付 | 経済指標、イベント等 | 日付 | 経済指標、イベント等 |
|---------|-------------------|---------|---------------------|
| 4/1(月) | 日銀短観 | 4/12(金) | 3月米小売売上高 |
| | 3月中国製造業PMI | | 4月ミシガン大消費者信頼感指数・速報値 |
| | 3月米ISM製造業景況指数 | | ユーロ圏財務相会合(～13日) |
| 4/3(水) | 3月米ADP全国雇用者数 | 4/17(水) | 3月南ア消費者物価指数 |
| | 3月米ISM非製造業景況指数 | | 2月南ア実質小売売上高 |
| 4/4(木) | 日銀金融政策決定会合(3日～発表) | 4/18(木) | 3月日通関ベース貿易収支 |
| | 欧州中銀金融政策発表 | 4/23(火) | 4月中国HSBCフラッシュ製造業PMI |
| 4/5(金) | 3月米雇用統計 | 4/25(木) | 3月南ア生産者物価指数 |
| 4/8(月) | 2日日貿易収支 | 4/26(金) | 日銀金融政策決定会合 |
| 4/9(火) | 3月中国消費者物価指数 | | 第1四半期米GDP・速報値 |
| 4/10(水) | 3月中国貿易収支 | 4/30(月) | 3月南ア貿易収支 |

巻頭の特記事項を必ずお読みください。